



インスリン製剤とGLP-1受容体作動薬って何が違うの？

糖尿病の治療に使用される注射薬には、「インスリン製剤」と「GLP-1受容体作動薬」があります。

GLP-1受容体作動薬とはどのような薬なのか、またインスリンと何が違うのか解説します。

【インスリン製剤】

インスリン製剤は、インスリンそのものを補います。1型あるいは2型糖尿病患者さんに使用できます。効果の発現時間や持続時間など特徴の違うインスリン製剤が多数開発されています。ただし、低血糖のリスクや体重増加などがみられます。

【GLP-1受容体作動薬】

食事をすると、小腸からインクレチンという消化管ホルモンが分泌されます。GLP-1はインクレチンのひとつで、膵臓のβ細胞にあるGLP-1受容体に結合してインスリンの分泌を促し、血糖値を下げる働きがありますが、DPP-4という酵素によって速やかに分解されます。そこでGLP-1の働きが持続するように工夫して創られた薬がGLP-1受容体作動薬です。1日1回、1日2回、1週間に1回使用するタイプがあり、インスリン分泌が残っている2型糖尿病患者さんに使用されます。

<GLP-1受容体作動薬の様々な働き>

- 膵臓に対する働き
 - ・膵臓のβ細胞に作用してインスリン分泌を促し血糖値を下げる。
 - ・膵臓のα細胞に作用してグルカゴン分泌を抑え血糖値の上昇を抑制する。
- 消化管に対する働き
 - ・胃の蠕動（ぜんどう）運動を抑えて、胃の内容物が小腸へ排泄されるのを遅らせて、食後血糖値の急激な上昇を抑える。
- 中枢神経に対する働き
 - ・視床下部に直接作用して食欲を抑える。

※GLP-1受容体作動薬は、低血糖が少なく体重増加も起こしにくいことが特徴です。

主なGLP-1受容体作動薬と投与回数

ビクトーザ[®]皮下注18mg



バイエッタ[®]皮下注5μgペン300



トルリシティ[®]皮下注0.75mgアテオス[®]



リクスミア[®]皮下注300μg



バイエッタ[®]皮下注10μgペン300



オゼンピック[®]皮下注2mg



1日1回

1日2回

週1回



<編集後記>

糖尿病治療薬の選択肢は広がっています。ご自身に合った治療法でより良い血糖コントロールを目指しましょう！

発行元：市立三次中央病院

糖尿病療養指導チーム

文責：薬剤師（田畑貴康・中村武司）